

2023 年度
(令和 5 年度)

学校関係者評価報告書

2023 年 7 月

学校法人 国際文化アカデミー
JTB トラベル&ホテルカレッジ

1、学校関係者評価

(1) 目的

- ① 自己評価の評価結果の客観性・透明性を高める。
- ② 専修学校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図る。

(2) 評価のポイント

- ① 自己評価結果の内容が適切か
- ② 自己評価結果を踏まえた今後の改善方策が適切か
- ③ 学校の重点目標や評価項目が適切か
- ④ 学校運営の改善に向けた実際の取組が適切か

(3) 評価期間

2022 年度（2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日）

(4) 評価結果の公表・活用

- ① 評価結果や今後の改善方策等を公表する。
- ② 評価結果を改善方策の検討に活用し、次年度の重点目標の設定や学校運営や教育活動などについて具体的な改善を図る。

(5) 学校関係者評価委員会の構成

① 学校関係者評価委員 4 名

氏名	種別	所属	役職	任期
傳寶 貴子	企業	(株)京王プラザホテル	人事部人事支配人	3 年
齊藤 一郎	地域	巣鴨信用金庫	本店営業部 部長	3 年
飯塚 裕美	卒業生	三井不動産 株式会社	(同窓会会長)	3 年
濱部 紗智奈	企業	(株) J T B	人事部人財開発マネージャー	3 年

② 学校経営者層教職員 3 名

氏名	所属	役職
坂本 友理	JTB トラベル&ホテルカレッジ	常務理事 校長
井上 聡	JTB トラベル&ホテルカレッジ	常務理事 総務部長
堀口 由美子	JTB トラベル&ホテルカレッジ	教務部長

(6) 学校関係者評価委員会の実施状況

- ① 日時 : 2023 年 7 月 26 日 (水) 14 : 00~16 : 10
- ② 場所 : JTB トラベル&ホテルカレッジ 図書室
- ③ 参加者 : 学校関係者評価委員及び学校経営者層教職員
- ④ 配布資料 : 2022 年度自己評価報告書
- ⑤ 議題 : 2022 年度の自己評価について

2、実施方法 (評価)

(1) 『専修学校における学校評価ガイドライン』に沿って実施した『2023 年度自己評価報告書』について、学校関係者教職員から基準毎 (1~10) について説明を行った後、学校関係者評価委員が点数化し、その平均点 (小数第 2 位を四捨五入) を記載した。(自己評価についても、各項目の平均点を記載した。)

(2) 基準毎の評価点は下記の通り

- 4 点 : 適切
- 3 点 : ほぼ適切
- 2 点 : やや不適切
- 1 点 : 不適切

(3) 学校関係者評価委員からの質問、意見等を記載した。

3、評価結果報告

【基準 1】教育理念・目的・人材育成

	評価項目	自己評価 (平均)	学校関係者評価 (平均)
1-01	理念・目的・育成人材像	4.0	4.0

(意見)

・学生の進路ニーズの多様化に伴いカリキュラムとの連動を図っていくことは継続してほしい。

【基準 2】学校運営

	評価項目	自己評価 (平均)	学校関係者評価 (平均)
2-02	運営方針	4.0	4.0
2-03	事業計画	3.8	
2-04	運営組織	4.0	
2-05	人事・給与制度	4.0	
2-06	意思決定システム	4.0	
2-07	情報システム	4.0	

(意見)

- ・コロナ禍に伴い、計画を臨機応変に対応していることは素晴らしい。
- ・教育を支える教職員のレベルアップ及びフォローアップ体制の構築は大事である。

【基準3】教育活動

	評価項目	自己評価 (平均)	学校関係者評価 (平均)
3-08	目標の設定	4.0	4.0
3-09	教育方法・評価等	3.9	
3-10	成績評価・単位認定等	4.0	
3-11	資格・免許の取得の指導体制	4.0	
3-12	教員・教員組織	4.0	

(質問・回答)

- ・デジタル教育はどのような教員が実施しているのか？

⇒常勤講師が実施している。非常勤講師はベテランが多く不得手な場合もあるので、フォローしながら実施している。昨年より非常勤講師 1 名が常勤講師となり専門に担当している。

- ・デジタルリテラシーに関して、ホテルや業界から求められるスキルは？

⇒ホテル・旅館ともに個々により異なる。デジタルリテラシーを一番に挙げているところは無いが、データを読み取る力は強みになり、活動領域は広がる。

- ・デジタル教育はすべての学科で実施しているのか？

⇒現在は観光科が中心。将来的には、ホテル科にも取り入れたい。営業や広報をやりたい人向けに必要性を感じてもらう。

(意見)

- ・ニーズに合わせたカリキュラム編成を行い、成果発表会において優勝された件などは、素晴らしい。
- ・デジタルを活かした授業の推進を行っていることは評価できる。
- ・データマーケティングを勉強することは就職に役立つ。
- ・マーケティング分析力があれば見え方も異なるので、良い取り組みである。
- ・学生の少人数化に対しても対応を試みていることは評価できる。
- ・強みである資格取得について、引き続き注力を期待する。

【基準4】学修成果

	評価項目	自己評価 (平均)	学校関係者評価 (平均)
4-13	就職率	4.0	4.0
4-14	資格・免許の取得率	4.0	
4-15	卒業生の社会的評価	2.5	

(質問・回答)

・4-13-1 求人は復活してきており就活も早期化・長期化となっている。企業が採用活動する時期・期間としては適当か？

⇒学生はなかなか早期に就職のイメージが出来ていない。特にコロナ禍においては職業のイメージ感が持ちにくい環境でもあった。また、業界や企業研究する時間も必要であり、極端な早期化は望まない。

・4-15-1 卒業生の社会的評価を把握するのは、困難ではないか？

⇒ホームページなども活用して卒業生情報の収集を行い、最新の学生管理システムへの入力・データ管理により状況の把握を図っていきたい。同窓会としても検討してほしい。

(意見)

- ・就職率2年連続100%は、もっとアピールすべきである。
- ・面接訓練にオンラインを導入し、昨今の就職活動に対応していることは評価できる。
- ・資格取得者数は合格実数より割合表記の方が良い。
- ・卒業生の動向、就職してから振り返って学校に感じた想いを吸い上げる仕組みを整えていけると尚良い。

【基準5】学生支援

	評価項目	自己評価 (平均)	学校関係者評価 (平均)
5-16	就職等進路	4.0	4.0
5-17	中途退学への対応	4.0	
5-18	学生相談	4.0	
5-19	学生生活	4.0	
5-20	保護者との連携	4.0	
5-21	卒業生・社会人	3.0	

(質問・回答)

・5-21-2 地域創生や地域活性化に対する学生側の興味は？

⇒興味ある生徒もいるが、非常に少ない。どのように関与させるかなどプログラム化が必要。

- ・大規模災害の対策はどのように行っているか？

⇒避難所を近くの公園、小学校に設定し、避難訓練も実施している。

(意見)

- ・メンタルヘルスは今後更に重要視されてくると思う。
- ・中途退学者の記載は人数と割合(%)の併記が良いと思う。
- ・留学生の支援、ケアもしっかり出来ていることは評価できる。
- ・他校との合同面接実施は良い取り組みである。
- ・保護者への対応は、SNSをうまく活用しながら連携されていると感じた。

【基準6】教育環境

	評価項目	自己評価 (平均)	学校関係者評価 (平均)
6-22	施設、設備等	3.9	4.0
6-23	学外実習、インターンシップ等	4.0	
6-24	防災・安全管理	4.0	

(意見)

- ・コロナ禍での学外実習中止や期間短縮の対応を行ったのは良かった。

【基準7】学生の募集と受入

	評価項目	自己評価 (平均)	学校関係者評価 (平均)
7-25	学生募集活動	4.0	4.0
7-26	入学選考	4.0	
7-27	学納金	4.0	

(質問)

- ・7-25-1 観光希望者が集まらず催行中止となるケースとは？

⇒高校で行われる進路ガイダンスは、様々な分野の専門学校が参加して行われるが、観光分野への興味ある生徒がいないということ。ペット関係や美容関係などは人気がある。

(意見)

- ・学生募集に対して、新たに職員横断型 PJT を実施することは大変だが、知恵を出して進めてほしい。
- ・高校生の観光業界への興味が薄れていることは残念。SNS 対応強化に期待する。

【基準 8】財務

	評価項目	自己評価 (平均)	学校関係者評価 (平均)
8-28	財務基盤	3.9	4.0
8-29	予算・収支計画	4.0	
8-30	監査	4.0	
8-31	財務情報の公開	4.0	

(意見)

・8-28-1 繰越収入超黒字化のシュミレーションを行っており、自己評価評価は「4」で良いと思う。

【基準 9】法令等の遵守

	評価項目	自己評価 (平均)	学校関係者評価 (平均)
9-32	関係法令、設置基準等の遵守	4.0	4.0
9-33	個人情報保護	4.0	
9-34	学校評価	4.0	
9-35	教育情報の公開	4.0	

【基準 10】社会貢献、地域貢献、国際交流

	評価項目	自己評価 (平均)	学校関係者評価 (平均)
10-36	社会貢献・地域貢献	2.9	4.0
10-37	ボランティア活動	4.0	

(意見)

・10-36-1 教職員に対して簡単な理解度テストを実施することで、自己評価評価は「4」になると思う。

・駿台トラベル&ホテル専門学校との合同イベント実施している点は評価。
・コロナ禍において制限はありつつも、オンラインを活用した点は他のプログラムにも活かせると感じる。アフターコロナにおける取り組みの加速を期待。

【全体】

(全体を通しての意見)

- ・コロナは様々なものを変えてしまった。そのような中で真剣に取り組みをされている。留学生に対して日本政府も本腰を入れて取り組む様子であり、また4月からは学校名も新たに变更されるので、そのことをきっかけにして、さらに飛躍していくことを期待している。地域として協力できるところはしていきたい。
- ・観光業界から少し離れた目線で見ているが、ツーリズム自体は決してなくならないと思っている。今はまだ敬遠されている感じがあるが、これから地域創生等がもっと活性化してくれば、ツーリズム全体が盛り上がってくると思う。
- ・観光の専門学校や業界に興味を持ってくれる人がいて、ホテルへの就職に繋がるが、観光業界自体の厳しさを改めて認識した。他校との合同イベントなど学生のモチベーションをあげる取り組みをされていて、頑張っている活動されている様子が見えた。
- ・観光産業全体への不信感や不安感をぬぐうことはグループ会社一体となって、または業界全体で取り組むべき課題かと思う。一朝一夕で解決できないが、会社やグループとの連携の中で様々な解決策を考えていきながら、回復の波に乗り遅れない準備をしっかり行っていく必要性を感じた。観光業界が求めている人材像や、学生が期待している修得スキルをリサーチし、より時代に即したカリキュラム、魅力的な学校にしておくことを期待したい。

以上